

里山野生鳥獣管理技術者養成プログラム

実施機関：宇都宮大学（総括責任者：進村 武男）

実施期間：平成 21～25 年度

プロジェクトの概要

宇都宮大学と栃木県の連携により、地域における野生鳥獣の保護管理対策を担う「地域鳥獣管理士」を5年間で総計60人以上養成する。大学院修士課程の学生を対象とした総合的な対策を計画する能力を備えた「地域鳥獣管理プランナー」と、社会人を対象とした地域における対策を直接助言・指導する能力を備えた「地域鳥獣管理専門員」を養成するプログラムを編成する。宇都宮大学の教育研究実績と栃木県の実務経験を相互に補完して特別カリキュラムを編成し、講義、演習、現地実習、インターンシップを行う。事業の実施と平行し、地元住民、自治体等が連携して地域の市町を事務局に「里山野生鳥獣協働管理フォーラム」を構築して、地域鳥獣管理士の活躍を積極的に支援する。

(1) 評価結果

| 総合評価 | 目標達成度 | 人材養成手法の妥当性 | 実施体制・自治体等との連携 | 人材養成ユニットの有効性 | 継続性・発展性の見通し | 中間評価の反映 |
|------|-------|------------|---------------|--------------|-------------|---------|
| A | a | a | a | a | a | a |

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

(2) 評価コメント

本プロジェクトは、地域における野生鳥獣の保護管理対策を担う人材の養成という社会的な要請を踏まえたものであり、時宜を得た取組である。地域鳥獣管理プランナーと地域鳥獣管理専門員の養成に加えて、新たに鳥獣管理士資格制度を設定したこと、また修了者の多くが自治体や民間で活躍していることなどは評価できる。今後は、プランナー及び専門員の専門性と資格との関連性を明確化し、適切な使い分け方についてさらなる検討を行うこと、また他地域への情報提供や波及・普及も図り、当該資格制度の法制化も含めて国レベルの制度として展開・構築されることを期待する。

- ・**目標達成度**：鳥獣管理プランナー36名、鳥獣管理専門員37名を養成し、合わせて目標を上回る人材を輩出したこと、及び鳥獣管理技術協会を設立し、鳥獣管理士制度を創設した点は評価できる。

- ・**人材養成手法の妥当性**：大学内に里山科学センターを設置、拠点化し、戦略的計画を立案できる鳥獣管理プランナーと現場対応ができる鳥獣管理専門員など、機能を分化した専門員の養成に向けた適切なプログラム構築がなされていると評価できる。しかし、実際に鳥獣管理の実務に係る場合、鳥獣管理プランナーと鳥獣管理専門員という2種類の専門性と鳥獣管理士の資格が、専門員を受け入れる組織、社会にそれぞれどのような位置づけで理解され、登用されるのか、さらなる明確化を期待する。

・**実施体制・自治体等との連携**：連携自治体である栃木県と包括連携協定が締結され、養成された鳥獣管理士が自治体に登用され活躍するなど、実質的な連携が見られること、また、現地拠点を整備し、国連大学等と連携して取組を実施している点なども評価できる。

・**人材養成ユニットの有効性**：修了者の9割が鳥獣管理士資格試験に合格し、自治体や民間の両方で活躍している点は評価できる。今後は、修了者が地域でよりよく活躍できる仕組みづくりや活躍の場の設定、また全国からの受講生の受入れなどにも期待する。

・**継続性・発展性**の見通し：鳥獣管理士資格を支える社団法人の設立や、獣害対策モデル地区において活動が開始されたことは評価できる。また、鳥獣管理士養成の仕組みの継続実施が自治体との間で合意され、栃木県において鳥獣対策のための研修会が予算化されたことなども、人材の登用を目指した行政事業への道を開いたことと併せて、評価できる。地域の切迫した課題であることから、今後は、栃木県との連携を深めつつ取組の一層の展開を期待する。

・**中間評価の反映**：社団法人の設立や鳥獣管理士資格制度の設定等により鳥獣管理士の位置付けを明確化するなど、適切に反映されているものと評価できる。